

令和 4 年度 県立勝田高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健やかで、気力に満ちた有為な人材を育成することに努める学校。 ・生徒の自立心を伸長し、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を培うことに努める学校。 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導 生徒は概ね意欲的に学習に取り組んでいる。アンケートで「課題によく取り組んでいる」と回答した生徒は90%を超えており、自発的な学習習慣の定着が見られる。今後はICT機器を活用し、生徒の理解度や興味関心に応じた学習支援や授業改善を推進する。 ・進路指導 国公立大学への現役合格者数は33名。国公立大・難関私立大合格60名以上の目標に対し93名(昨年度比+20名)と大躍進した。引き続き、組織的・計画的・継続的な進路指導を行うとともに、探究活動やキャリア教育の充実を図る。また、生徒が自ら探究する態度を育成する体験活動・発表の場を用意し、生徒の取り組みを支援する。 ・生徒指導 生徒の大部分が規律を守り、落ち着いた生活を送っている。規範意識の一層の向上を目指す。交通関係の事故を無くすべく、交通安全指導の充実を図ることが課題である。 ・特別活動 部活動参加率は80%を超えており、生徒会活動等の活動も概ね活発である。文化祭等の学校行事をさらに充実した内容にするために、勝田中等教育学校との連携を強化し、生徒会及び実行委員会の主体的な活動を協力体制のもと、協働することが課題である。 	1 豊かな心の育成	①「挨拶」をする、「時間」を守る、「身だしなみ」を整える、ということを徹底し、規範意識の高揚を図る。 ②国際教育の充実を図り、広い視野と多様性を尊重する態度を養う。 ③奉仕的活動等への参加を積極的に推進し、豊かな人間性を養う。	A
	2 確かな学力の涵養	④教師も生徒も授業第一をモットーに、アカデミックな雰囲気醸成に努める。 ⑤授業内容と方法について工夫改善を加え、新学習指導要領に基づいた新入試に対応できる学力の育成を図る。 ⑥ICT機器の活用を推進し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努め、思考力・判断力・表現力を育成する。	A
	3 進路指導の充実	⑦高校3年間及び中等後期課程を見据えた組織的、継続的な進路指導体制の確立に努める。 ⑧探究活動・キャリア教育の充実を図る。 ⑨ICT機器を利用した教材配信など新しい方策を併せ、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援を行う。 ⑩面談を充実させ、個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導を行う。	A
	4 特別活動の活性化	⑪HR活動や生徒会活動、部活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。 ⑫道徳教育等を推進し、学校生活における様々な規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。 ⑬キャリア・パスポート等を活用し、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力と関連付けることへの意識付けを図る。	B

別紙様式2 (高)

<p>・働き方改革 一ヶ月あたりの平均超過勤務時間が昨年度に比べて減少しており、長時間労働の改善が進んでいる。完全退勤時間や定時退勤日を設定するとともに、休暇を取得しやすい環境も整えている。各種会議に長時間を要しているため、審議事項等の精選や運営方法の改善を図ることが課題である。</p>	5 連携の強化	<p>⑭保護者や地域住民への情報発信を積極的に行い、本校及び勝田中等教育学校に対する理解と協力の獲得に努める。</p> <p>⑮教職員間の連携を深めるため、報告・連絡・相談・確認・記録の徹底を図る。</p> <p>⑯地域の小・中学校への授業参観や先進校視察などを通して、教育課程及び学校運営の在り方や授業改善などについて積極的な情報収集を図るとともに、勝田中等教育学校の体制及び組織づくりに積極的に関わり、学校運営を効率的かつ円滑に進める。</p> <p>⑰勝田中等教育学校へ移行する過程で、指導体制や教育方針、特色ある取り組みをより明確にして、広く周知する。</p>	B	
	6 働き方改革の実践	<p>⑱長時間労働の改善に向けて、ICT機器の活用を推進し、仕事の効率化・軽量化を図ることで超過勤務時間の削減を目指す。また、積極的に休暇を取得し、心身の健康維持に努める。</p>	A	
三つの方針	具体的目標			
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>(長期的目標)</p> <p>①心身ともに健やかで、気力に満ちた有為なリーダーとして活躍できる人財の育成。</p> <p>②生徒の自立心を伸張り、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を身に付けた、社会に貢献できる人財の育成。</p> <p>③国際社会で活躍できる人財の育成。</p>		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<p>(中期的目標)</p> <p>①「主体的・対話的で深い学び」を推進した教育課程による、国公立大学及び難関私立大学志望者の進路実現。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた学習活動とキャリア教育による、就職から大学進学までの進路希望実現。</p> <p>③生徒の多様な学習ニーズに対応した学習活動とグローバル教育による、海外大学志望者の進路実現。</p>		
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<p>(短期的目標)</p> <p>①自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒。</p> <p>②学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事・生徒会活動・部活動・奉仕的活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒。</p> <p>③国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語の取得及び異文化交流(理解)に努める生徒。</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題

別紙様式2 (高)

教科指導	基礎基本の定着を図る。	ICT機器を活用し、生徒の理解度に応じた学習支援を継続的に行う。	A	A	・ICT機器を効果的に活用するために、Googleアプリに加えて、Classiノートを授業に取り入れられるようにする。			
	指導内容と方法について工夫改善を図る。	アクティブ・ラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善について研修し、指導力の向上に努める。	B					
	学習の習慣化を図る。	ICT機器を利用して課題や教材を配信するなど、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を図る。	A					
		学習の記録をつけさせることにより、家庭学習の取組方法を改善するための指導を行う。	A					
		家庭学習の必要性と効果が実感できるような授業を展開し、自発的な学習習慣の定着を図る。	B					
	進学意識の高揚と学力の向上を図る。	入試問題や模擬試験問題を積極的に活用する。	A					
		授業時間以外の課外指導や個別指導等の充実を図る。	B					
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	入門期の指導を徹底し、高等学校の学習への速やかな移行を促す。	A	A	・新教育課程における新科目が始まるため、研修や情報共有を通して、生徒に適切な指導を行えるようにする。 ・適切な評価に向けて、記録や振り返りの方法を今一度検討する。		
			小テストや週末課題等を通して反復指導を行い、語彙・文法・読解力等の基礎力の定着を図る。	A				
			資料・教科書等を活用した丁寧な授業を通して、深く考察し適切に要旨をつかむ姿勢を養う。	A				
		大学入試に対応できる学力を養成する。	研修会等に参加し、模擬試験の傾向を分析し、大学入学共通テストに向けての対策を行う。	B				
			生徒が自らの考えを表現できる力を、普段の授業や小論文指導等を通して醸成し、自ら入試を突破する力を養う。	B				
			問題集を課題とし、多くの演習を行うことを通して、応用力の充実を図る。	A				
			進路指導部・第3学年と連携を取り、大学入学共通テストに対応できる思考力・判断力を身に付ける。	B				
	教材をとおして、豊かな心の育成を図る。	古典の学習を通して、先人の知恵や教養、日本古来の文化に触れる。	A					
		現代文の学習を通して多様なものの見方に触れ、思考力の育成を図る。	A					
	勝田中等教育学校との連携	授業参観を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究し、ICT等を適切に用いた授業改善に努める。	B					
	地歴公民	基礎学力の向上を図る。	ノート・課題等を提出させることにより、学習状況を確認し、授業の工夫改善に努める。	A			A	・新教育課程における新科目(公共、日本史・世界史・地理探究)の指導法の研
			小テストや問題演習等を数多く行い、繰り返し学習することで、基礎基本の定着を図る。	A				
		大学入試に対応できる	放課後・長期休業中の課外等の実施により、豊富な知識と応用力を養成	A				

別紙様式2 (高)

教 科		学力を養成する。	する。			究。 ・中等後期課程の指導内容の検討。	
			大学入試問題や模擬試験の問題を研究し、授業や試験問題の作問に活かす。	A			
			模擬試験の対策や実施後の指導を丁寧に行う。	A			
		国家・社会の形成者としての意識を醸成する。	主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養成する。	A			
		勝田中等教育学校との連携	教員間で相互に授業参観を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	B			
	数学	基礎学力の向上を図る。		授業目標・評価方法等を明確に生徒に示し、シラバスに基づいた計画的かつ継続的な学習指導を行う。	B	A	・新教育課程における大学入試に向けて、計画的な取組のための方向性の確立。 ・できる生徒を伸ばす補講と、授業内容が定着していない生徒のための補講の実施。
				課題として授業・課外の内容の基本演習を課し、基本演習の充実を図る。	A		
				3観点の一つである「主体的に学習に取り組む態度」を養うことを意識した授業改善に取り組み、生徒の学力の定着と新しい評価への対応の両立を図る。	A		
		大学入試に対応できる学力を養成する。		高校3年間を見据えて、授業進度の確認や生徒の理解状況、大学入試問題の傾向、大学入学共通テストについての情報等を教職員間で共有し、連携しながら生徒の進路に応じた学力を養成する。	A		
				放課後、土曜日及び長期休業中の課外に継続性を持たせる。	B		
				授業や課外での、模擬試験等の問題演習や解説を通して、応用力を身に付けさせる。	A		
			勝田中等教育学校との連携。	相互に授業観察を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりに努める。	B		
	理科	基礎学力の向上を図る。		家庭学習の必要性和効果が実感できるような授業を展開し、自発的な学習習慣の定着を図る。	B	A	・中等との連携を深め、中等後期課程での理科の学習にスムーズな移行ができるよう努める。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、タブレットの活用。
				最新的话题を提示することや、探究的な活動を取り入れることで科学的な自然観を育成させるとともに、疑問点を主体的に見いだそうとする意欲を持たせる。	A		
				小テストや問題演習を実施し、基本的な概念や考え方の定着を図る。	A		
大学入試に対応できる学力を養成する。			定期考査や小テスト等に大学入試問題の内容を反映させ、かつ実施後の復習も丁寧に行う。	A			
			早朝、放課後及び長期休業中に課外や個別指導等を実施し、実力の養成を図る。	A			
	大学入学共通テストに合わせた思考力、判断力、表現力を育てる授業を	B					

別紙様式 2 (高)

教 科			展開する。				
			模擬試験について、過去問の演習や実施後の指導を拡充する。				
	保健 体育	勝田中等教育学校との連携。		勝田中等教育学校との間で相互に授業観察を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。		A	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導を工夫し、主体的な深い学びの実現。 実技の授業でも、ICTを活用していきたい。
			体力の向上を図る。	自己の能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指す。	A		
		健康の保持・増進ための実践力を育成する。	技能や体力を高めるために、運動の合理的な行い方を身に付けさせる。	A			
			個人生活や社会生活における、心身の健康への関心を喚起する。	A			
	芸術	音楽活動の基礎能力を高める。	自ら健康で安全な生活を実践できるような態度を育成する。	B			
			音楽の幅広い活動を通して、音楽を形づくっている要素を知覚・感受させる。	A			
		豊かな心の育成を図る。	個に応じた指導を行い、演奏発表の場を設けることで、基礎的な技能を高める。	B			
			我が国の伝統音楽に触れることで、日本の文化を尊重する態度を育てる。	A			
	外国語	基礎学力の向上を図る。	様々な教材を精選し、世界の名曲を演奏したり鑑賞したりすることで、音楽文化についての広い視野を持たせる。	B			
			小テスト(パフォーマンステスト含む)、演習を定期的実施して、学習効果を高める。	A			
			週末課題等の実施・提出を通して、家庭学習の習慣を確立させる。	B			
		大学入試に対応できる学力を養成する。	生徒一人ひとりの進路希望に応じた、課外や個別指導を実施する。	A			
			第2学年から入試問題対策演習を段階的に実施し、実力の向上を図る。	B			
		英検合格者の更なる増加を目指す。	生徒が各自の課題を明確化し、効果的に学習を行うため、外部試験(英検・GTEC・TOEFL)を活用する。	A			
		英検課外を行い、英語学習への意欲を喚起する。学習効率を高め、2級合格者50名を達成する。	B				
	勝田中等教育学校との連携。	「発達段階に応じた適切な外国語指導の在り方」について研究し、学術顧問との連携、近隣小中学校への授業参観や公開授業を積極的に参観し、前期生の授業を工夫する。	B				
家庭	基礎・基本の充実を図る。	個に応じた指導を行い、自立した生活者に必要な知識と生活技術を身に付けさせる。	A				
		実践的・体験的な学習をより多く取り入れ、授業がわかる喜びを実感させる。	B				
					B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における実習の工夫。 ICTの効果的活用。 	

別紙様式 2 (高)

教 科	情報	生活の充実向上を図る能力と態度を育てる。	身近な生活の中に課題を見出し、授業で学んだことを生かして、それを改善しようとする態度を育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法のついで研修。 ・共通テストでの出題に向けた情報収集と授業や課外のあり方の継続検討。 ・情報モラルや関係法規の授業の充実。 ・プログラミングやデータサイエンスの教科横断的な指導の充実。
		豊かな心の育成を図る。	家族・社会の変化・課題に関心を持たせ、共に助け合いながら生きることの大切さに気づかせ、自他の生命を尊重する態度を育てる。	B		
		情報活用の実践力を育成する。	データの收拾・作成・活用や、プログラミングについて、実習を通して基本的な技術を習得し、問題解決に活かせるように努める。	A		
		言語活動の充実	情報通信ネットワークとコミュニケーションについて理解し、プレゼンテーション活動を通して、自己表現力や他者理解について学べるような授業づくりに努める。	B		
		情報社会に参画する態度を育てる。	プライバシー・著作権・情報モラルに関する学習を通して、情報が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。	B		
		各種メディアから情報を収集・整理する学習を通して、自己の在り方・生き方について主体的に考える態度を育てる。	A			
新教育課程の授業づくり。	新教育課程の情報Ⅰについて、講演会や研修会等へ積極的に参加し、大学入学共通テストでの出題に対応できるような授業づくりに活かす。	A				
教 務	教 務	授業時間の確保に努める。	各授業時間の実施状況を確認し、授業時間の確保に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、特に高校籍の教員が中等の授業を積極的に参観し、中学生に対する教授法を学ぼうとする、教員の意識改革をどう図るか。 ・(2つ目の「ICT」に関する目標は、「ICT 室」のと重なるので、次年度は削除予定)
			ICT 機器を活用し、新型コロナウイルス対応の中でも、最大限授業の確保に努める。	A		
		学習指導の充実を図る。	年間計画(シラバス)を生徒に配付し、授業の目標・学習方法・評価方法を明確に示す。	A		
			校内研修や教員相互で授業参観をする機会を設けることで、より一層の授業の充実を図る。	B		
		開かれた学校づくりを目指す。	新学習指導要領に沿った評価方法について研修し、指導と評価の一体化を図る。	B		
			各部・各学年と連携し、ホームページを定期的に更新するとともに、詳細な情報を保護者、地域に発信するように努める。	A		
			中学校との情報交換を行い、連携強化を図る。	A		
			より多くの中学生が本校に関心を持つように、学校説明会の内容と運営方法の改善に努める。	A		
		情報処理環境を充実させる。	学校評議員会を通して、学校運営全般に関する意見を積極的に聴取する。	A		
			ICT 推進部と連携し、成績処理を中心とした生徒情報の管理システムを安定させる。	A		
		勝田中等教育学校との連携の強化。	学校運営及び教育課程の在り方や授業改善などについて積極的に情報交換を図り、勝田高校から勝田中等教育学校への教育活動のスムーズな移行に備える。	B		
			各部と連携し、勝田中等教育学校の体制及び組織づくりを効率的かつ円滑に進める。	A		
幅広い働き方の実現。	会議資料等のペーパーレス化を進め、仕事の効率化および環境保護に努める。	A				
	各種アンケートをはじめとする従来の業務の ICT 推進を進め、仕事の効率化を図る。	A				

別紙様式 2 (高)

教 務	図書館室	本に親しむ習慣の育成を図る。	「図書館だより」を毎月1回以上発行し、本への興味を高め、読書の習慣を育む。	A	A	・生徒の発達段階に合わせた支援と館内環境の整備。
			生徒・教員から図書購入希望を随時受け付け、そのニーズに応えることで、図書館をより身近な存在として意識し、利用を促進する契機とする。	B		
		図書館環境の整備を図る。	生徒の発達段階に合わせた支援ができるよう蔵書の充実を図り、図書委員会の活性化をしながら、図書館内外の環境を整備する。	A		
		校内外への情報の発信を積極的に行う。	生徒・保護者に「図書館だより」を配付し、本校の図書館の特色や蔵書等について発信する。特に新生生には図書館の利用指導を行い、積極的な利用を呼びかける。	A		
	ICT室	ICT機器を活用して、協働学習の促進や言語活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	授業における具体的なICTの活用法などについて、研修会や動画の配信などを行い、教職員のスキルの向上を図る。	A	B	・より深い学びを得られるようなICT活用の充実。 ・情報発信の業務の平準化と発信頻度の増加。
			ClassiNOTEを活用し、ICT教育の推進を図るとともに、授業改善を進める。	B		
		ICTによる校務の効率化を図り、教職員の業務負担軽減や労働時間削減を図る。	教職員に対して研修や支援を随時行い、校務支援システムやClassiの積極的な活用を促進する。	A		
			校内サーバーの保守や、ICT機器の整備・メンテナンス、各種システムの管理を定期的に行い、安定感のある常に使いやすい状態を維持する。	A		
		教育活動の広報や保護者・生徒への連絡などを、ホームページを通して行い、開かれた学校づくりの一翼を担う。	各学年や各校務分掌、部活動など様々な部署が、自らたくさんの情報を提供し、高い頻度でホームページを更新するよう、広報に対する教員の意識改革に務める。	B		
		視聴覚機器の整備を図る。	毎日視聴覚委員会によるお昼の放送を行うことで、委員会活動を活発化させつつ、放送内容や音量をより工夫し、常時視聴覚機器の整備・点検を行うことで、不具合等によるトラブルを未然に防ぐ。	B		
進路指導	進路指導	高校3年間を見通した組織的・継続的な進路指導体制の確立に努める。	進路指導内容を学年間で引き継ぎ、進路指導における学年間連携をより深める。	A	A	・総合型選抜で難関大学に合格させる手立ての構築が急務である。 ・スタッフ数が少ないので、異学年の教員も自然と協力する体制を整備する。
			KT・LHR及び学年集会を計画的に活用し、進路学習の充実を図る。	A		
			生徒の実態に応じ進学講演会・研修会等を行い、正確で適切な情報を提供する。	A		
			事前事後の指導の充実と、他行事との関連を深めることにより、進路行事の充実を図る。	A		
			進路資料、教員のための進路指導シラバス、スタディガイド、生徒が持つ資料の充実を図る。	A		
	チャレンジ30	生徒に基礎的基本的な知識技能を定着させるとともに、それらを活用で	B	B		

別紙様式2 (高)

進路指導	[国公立大+難関私大合格者数 学年の30%以上]	きる思考力・判断力・表現力等の育成を目指した教師の指導力向上を図る。				
		Classi・タブレット端末・学習館等のツールを活用し課題や学習補助動画の配信や、生徒の学習状況を確認し、その情報を共有し指導に活かし、生徒が自学自習する態度の涵養を図る。	B			
		朝学・週末課題・土曜課外を、対象・目的が明らかになるように改善し効果的に実施する。	A			
		総合型選抜・学校推薦型選抜等指導体制の充実を図る。	B			
	探究活動・キャリア教育の充実を図る。	進路学習等を通し、「学ぶこと」や「働くこと」への意欲や積極的な態度を育てるとともに、自らのキャリアを計画、実行できる力を育成する。校外での体験研修等の拡大と充実を図る。	A	A		
		「総合的な探究の時間」を組織的、計画的に実施し、生徒の主體的な活動を支援することで、生徒のキャリア形成の一助とする。	A			
	ICT機器の活用。	積極的にICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努め、教員の授業力向上を図る。また、教材配信など新しい方策を併せ、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援を行う。	A	A		
	未来探究室	外部コンテスト等の周知と生徒の参加を支援する。	学校外の様々なコンテスト等の情報を集約し、適切に生徒へ伝達し、生徒の興味関心に応じた参加を支援することで、生徒のキャリア形成の一助とする。	A	A	・探究活動の計画作りは、未来探究室が中心になって行うことが重要。
		進路指導の目標及び計画を策定する。	「出口」を意識した明確な目標を立てるとともに、グローバルデイやキャリアデイなどの「探究」の行事を通して勝田高等学校と勝田中等教育学校との連携を図り、進路指導の充実を図る。	A		
外部団体との連携を図る。		官公庁・企業・各種団体と連携し、「探究」を中心とした進路指導計画の充実を図る。	B			
生徒指導	生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見・未然防止に努める。	被害調査を年に3回実施する。	A	B	・コロナウィルス感染拡大が原因で校内外のキャンペーンを中止にせざるを得なかった。	
		校内・校外巡視を実施する。	B			
		各学年と連携し、朝の立哨指導や服装一斉指導時に生徒への声掛けを積極的に行う。	B			
	規律ある生活態度を育成するとともに、社会の形成者としての資質の向上を図る。	服装・頭髪指導の徹底を図る。	B			
		遅刻指導の徹底及び授業のチャイムスタートの励行を図る。	A			
	交通安全の充実を図る。	校外キャンペーンへの参加や、保護者（生徒指導委員）、特別活動部と連携した校内でのあいさつ運動の展開を通して、マナーの向上に努める。	C			
		通学路における登下校指導の充実を図る。	A			
交通安全講話の実施、啓発プリントの発行等を通して、交通安全意識の	B					

別紙様式 2 (高)

	教育相談室	高揚と事故時の対応力の向上を図る。			A		
		自転車点検を年に3回実施し、交通事故の未然防止を図る。	A				
		問題の未然防止、早期発見、早期支援に努める。	面接週間を年2回設定し、問題点を把握し、早期解決ができるようにする。	A			
			アンケート調査・構成的グループエンカウンターを取り入れ、自分も仲間も大切に学ぶ学級づくりを担当が目指せるよう支援する。	A			
		職員研修の充実を図る。	職員研修会を年2回実施し、教育相談に関する資料や情報を教職員に広報することにより、問題を共有化し、支援方法についての理解を深める。	B			
	スクールカウンセラー(S.C.)を積極的に活用する。	担任とS.C.の連携を深化させることにより、問題を有する生徒への早期の対応を図る。多様な見方から問題を捉え直すことにより、その解決の方策を担当(学年)と共に探る。	A				
特別活動	部活動の振興により、心身の健全な育成を図る。	新入生へのガイダンス等において魅力ある部活動紹介を実施し、多くの生徒の部活動への参加を促す。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の高加入率の維持と施設等の充実に努める。 高校と中等それぞれの学校行事への参加の仕方について、柔軟に対応する。 引き続きコロナウイルス感染予防対策を取りながら、学校行事の確保、運営を行う。 		
		生徒の安全面に配慮しつつ、技術向上と規範意識の育成を目指すよう、指導者の資質の向上を図る。	B				
		生徒がより効果的な活動・練習が実施できるよう、施設設備の充実を図る。	B				
	特別教育活動に参加する生徒の意識の向上と内容の充実を図る。	勝田高等学校と勝田中等教育学校との連携を図りつつ、生徒会執行部を中心とした主体的な生徒会活動の促進を支援する。	B				
		充実した学校行事の企画・安全面に配慮した運営を行い、生徒の積極的な参加を促す。	A				
		各種委員会において、生徒の主体的な活動を支援する。	A				
	キャリア・パスポートの活用。	ボランティアの規模や種類に応じて、希望者だけではなく、委員会・部活動での奉仕活動への積極的な参加を促す。	B				
進路指導部と連携を取りながらキャリア・パスポート等を活用し、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力の養成と関連付けることへの意識付けを図る。		C					
保健厚生	環境整備及び美化に努める。	年間2回の清掃用具の点検や日常的なチェックを徹底し、清掃用具の充足を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 清掃の時間と生徒の移動が重なり、特に廊下や階段の清掃が徹底できなかった。清掃時間含め、全体的な清掃の在り方を考 		
		学校全体で日常的な清掃の徹底に努め、環境の美化に努める。	B				
		教室環境検査を実施し、学習環境の改善に努める。	A				
	心身の健康増進を図る。	健康診断を通して、生徒個々人の健康状態の把握に努める。	A				
		集団や個別に対する保健指導を適切に行い、健康に生きる力・意欲を育てる。	A				
	防災・安全点検等を推	防災訓練を通して、防災意識を高め、災害時に迅速な避難行動が取れる	A				

別紙様式 2 (高)

	進する。	ようにする。 毎月安全点検を実施し、安全な生活環境の整備に努める。	A		える必要がある。
渉 外	P T A活動の活性化を図る。	勝田高等学校と勝田中等教育学校併存期間におけるP T A会員の連携・協力を深める。	B	B	・本部役員、学年委員の引き受け手が見つからない状況が見られるので、学年等と協力しながら、早めに役員を打診する必要がある。
		地域社会に根ざした学校教育を目指したP T A活動を行い、情報を発信する。	B		
		広報誌「たらさき」を通し、本校の教育活動の広報を充実させる。	A		
	役員の資質の向上を図る。	高P連主催の各種大会や研修会等に参加することで、他校の実践活動についての情報収集に努める。	B		
	各種委員会活動の活発化を図る。	生徒指導部と連携し、さわやかマナーアップキャンペーンや登校指導を行う。	A		
		視察研修の一環として、東京都内の大学キャンパス見学等の企画を検討し実践する。	A		
		広報紙「たらさき」の内容充実に努め、積極的に保護者と地域社会に発信する。	A		
P T A役員の選考方法について工夫する。	小学校や中学校と連携し、事前の情報収集を充実させ、入学予定者説明会・合格者説明会等で協力の依頼をすると同時に広報活動を行い、人選をよりスムーズで適切なものとする。	B			
50周年行事の準備を推進する。	周年行事から逆算しての準備の流れを明確化し、具体的準備を進める。50周年記念誌の編纂を進める。	A			
第1学年	基本的な生活習慣の確立と豊かな心の育成。	挨拶の励行、高校生らしい制服の着用など、基本的な生活習慣の確立を目指す。	B	B	・登下校時における交通ルールやマナーを遵守させる必要がある。 ・問題行動を起こさせない未然防止策を更に検討する必要がある。 ・自学する態度を養うために、課題の工夫やICTの活用をさらに進め、教科との連携を強化す
		日々の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
		登校時間の厳守、授業のチャイムスタートを徹底し、時間を守る習慣を身に付けさせる。	B		
		提出物等の提出期日や、学校及び学年の規則等を守らせる。	B		
	進路意識の育成。	総合的な探究の活動を通し、自らの課題を発見し、探究する力や解決する能力の育成を図る。	B		
		大学体験・大学出張講義・キャリア教育講演会などの進路行事を有効に活用し、文理選択を含めた進路目標の明確化を図る。	A		
		模擬試験受験後に学年集会や進路講演会を実施し、学力や学習習慣に関する情報を積極的に提供し、生徒一人ひとりの適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。	B		
		オープンキャンパスへの積極的な参加を促し、進路研究の活発化を目指す。	B		
基礎学力の確立。	授業第一を核とした学習習慣の定着を図り、「予習→授業→復習・宿題」	B			

別紙様式 2 (高)

第2学年		の学習サイクルを身に付けさせる。		B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のモチベーションを高める取り組みを企画・立案する。 	
		週末課題(英数国)・長期休業中課題の効果的な取り組みを工夫し、Classiを活用しながら、家庭学習の習慣化を図る。	B			
		主体的・対話的で深い学びを実現する授業展開に努め、随時工夫改善を行う。また課外授業・模擬試験を実施し、生徒の確かな学力を涵養するとともに、成績上位層へ指導の工夫を図る。	A			
		保護者との連携の強化。	A			
	保護者との連携の強化。	保護者会を実施し、保護者との連携の強化を図る。	A			
		学校ホームページや学年だより等で、進路や学年の情報を定期的に発信し、保護者との連携・協力体制の確立を図る。	B			
		保護者との連絡を密にとることで、心身に問題を抱えた生徒を早期に把握し、面談やカウンセリング等を実施し適切な対応をとる。	B			
	勝田中等教育学校との連携	授業観察や研修を通して、積極的に情報交換を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に務める。	B			
	第2学年	基本的な生活習慣の確立と生徒の自主性の育成に努める。	高校生らしい挨拶や頭髪、制服の着用を目指す。			A
			教室、廊下等の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。			A
遅刻の防止や授業のチャイムスタートを徹底し、時間を守る生活習慣を身に付けさせる。			B			
提出物等の提出期日や規則等を守らせる。			B			
進路意識の育成を図る。		KTや面談・進路講演会・大学模擬授業等とおして、進路意識の向上を図り、主体的に学ぶ意識を持たせ、よりよい自己実現に向けた支援をする。	A			
		総合的な探求の時間を活用して、学年集会や進路講演会を実施し、進路に関する情報を積極的に提供し、生徒一人ひとりの適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。	A			
		総合的な探求の時間を計画的に進め、生徒が自発的に学ぶ素地の育成と、進路サポート等を利用して具体的な進路を意識させた進路指導を充実させ、進路意識の育成を図る。	A			
		各種課外活動を実施することで、体験学習をおして自らの視野を広めさせる。	B			
基礎学力の確立を目指す。		Classiを活用して家庭学習の習慣化を図り、「予習・授業・復習」を中心にした学習習慣の確立を目指す。特に予習の実践への意識を高める。	B			
		課外授業(放課後・早朝)、模擬試験、学習講座を実施する。	A			
	進研模試デジタルサービスやファインシステムを活用し、生徒自身が客観的に自分の学力をつかみ、自己を向上させるための取り組みを支援する。	B				
保護者との連携の強化	保護者との連絡を密にし、問題の未然防止に努める。	B				
			B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は生徒の自主・自律を目標に、基本的な生活習慣の確立を目指し指導してきた。修学旅行等の学校行事においては、自分達でコースを決め集合時間を守るなど、ある程度達成できたように思う。 来年度は最高学年としての自覚を持ち、特に進路実現に向けて学年が一体となって取り組めるようにしたい。 		

別紙様式 2 (高)

	を図る。	保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し、学校と保護者との協力体制の強化を図る。	B		
		ホームページ等で、進路や学年の情報を定期的に発信し、保護者との連携・協力体制の確立を図る。	B		
		心身に問題を抱えた生徒を早期に把握し、SCと連携するなど、迅速で適切な対応をとる。	A		
	道徳教育の推進を図る。	発達段階や実態を踏まえ、豊かな人間性、社会性と協調性を身に付けさせる。	B		
	勝田中等教育学校との連携。	授業参観や研修を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	B		
第3学年	基本的な生活習慣の確立と生徒の自主性の育成に努める。	登校指導や学年集会を通して、挨拶の励行、時間を守ること、高校生らしい制服の着用を徹底し、規範意識を高め最終学年としての後輩の模範となる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選をすすめていかないと業務が滞ると予測される。作業の効率化を進め、丁寧にやりすぎなものについても見直しが必要。 ・遅刻が多かった。自主性に任せることも重要だが、登校・放課後指導の工夫も必要。 ・初期指導の指導の徹底。 ・コロナ禍での学習習慣の確立に努める。 ・悩みの発信を察知し、共感を持って対応し、解決の一助になれる指導を。 ・それぞれの入試
		授業のチャイムスタートを徹底させる。	A		
		教室及び校舎内外の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
	進路実現のための指導の工夫を図る。	進路指導部と連携して進路講演会・専門学校ガイダンス・面接指導等を実施し、進路に関する情報を提供するとともに、生徒の主体的な進路選択能力の向上を図る。	A		
		学習館・進路指導室・図書館・パソコン室の積極的な利用を促す。	B		
		模擬試験や個人面談を有効に活用することで、生徒一人ひとりの適性、能力等に応じた進路指導の徹底を図り、希望の実現に努める。	A		
		総合的な探究の時間を利用し、探究活動を行いながら自分の進路についての考えを深める。	A		
	課外の充実と生徒が積極的に学習できる環境づくりを目指す。	土日祝日に学習館を開館し、生徒が自主的に学習できる環境を整える。	A		
		放課後及び始業前に課外授業を実施する。また、土日祝日、長期休業中にも課外を実施し、指導内容の充実を図る。	A		
	保護者、地域の小中学校、職員間の連携・協力体制の確立を図る。	学年通信やホームページ、Classiを通して、進路や学年の情報を積極的に発信する。	B		
		保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し、学校と保護者との協力体制の強化を図る。	A		
		成績、欠席等で問題のある生徒については、保護者との連絡を特に密にする。	A		
		地域の小中学校への視察や近隣地域へ本校についての周知を行い、校内では職員間の連携を密にし、学校運営の効率化を図る。	B		
		心に問題を抱えた生徒を早期に把握し、SC、職員同士で連携し適切な対応をとる。	A		

別紙様式 2 (高)

					方式についての 事前の丁寧なガイ ダンスが必要。 ・外部に頼らず内 部指導力を上げ ていくことも必 要。生徒にとっ てなにか大切か を考えるべき。
--	--	--	--	--	---

※ 評価規準 A：十分に達成できた。 B：達成できた。 C：概ね達成できた。 D：やや不十分であった。 E：不十分であった。